



繪本由越軍記
初編
六

2258
6



門へ遠 13
 2258
 6



繪本甲越軍記卷之六

目錄

- 葦崎合戦之幸 葦崎合戦之幸 井奇兵敗狀事
- 淡江若夷駿武田之旗中圖
- 小猿虎盛斬木村又治郎圖
- 葦崎後法合戦之幸 葦崎後法合戦之幸 原加賀吉好討事
- 武田晴信喪傷之圖
- 味信著信之幸 味信著信之幸 板垣信元直捷之幸

和漢

貸本所

東京牛込細工所
 誠光堂
 池田屋清吉

凡士農工商とも起りの職有家業子因て抽用の異物を言ふ
 今日と營む夏世果一般の然るに近世写本の巻中解ら自家
 可事種々の書入又ハ秋之覚束るべき本偶人感見書
 男女の陰輝を画き君臣父子の中や一画と赤め合事
 同く多し是第ハ必竟一時の興子象しての戲道やんや備
 其職分は道具ハ疵付事ハ解とあり著述拙く筆者の供り
 可くも只言語を以て其遇ちと免卷中の戲画樂書等ハ後
 池田屋清吉は是と歎然然不真淨一團に素代りて諸君子所ある爾
 磨石山人識

晴信喜俊花軍遊戯之圖

其二

板垣信形學書作圖

板垣信形傳晴信圖



繪本甲越軍記卷之六

並崎合戦の事 并以奇兵敗敵幸

武田大膳大丈晴信 若年比大將と 武兵と用侍の妙なる事 孫

武兵起る腹中 武田大膳大丈晴信 若年比大將と 武兵と用侍の妙なる事 孫

よる攻りるべき道 武田大膳大丈晴信 若年比大將と 武兵と用侍の妙なる事 孫

みな着て是と 武田大膳大丈晴信 若年比大將と 武兵と用侍の妙なる事 孫

日より暮るる 武田大膳大丈晴信 若年比大將と 武兵と用侍の妙なる事 孫

波ふとすつと 武田大膳大丈晴信 若年比大將と 武兵と用侍の妙なる事 孫

鷲の羽 武田大膳大丈晴信 若年比大將と 武兵と用侍の妙なる事 孫

らごうけの 武田大膳大丈晴信 若年比大將と 武兵と用侍の妙なる事 孫

の約 武田大膳大丈晴信 若年比大將と 武兵と用侍の妙なる事 孫



敵 敵 敵

甲越

甲越

合我 菲濟



繪本日本書紀卷六

同小川の... 武田の諸軍... 旗本... 押寄... 頼茂も... 諏訪... の士大将... 隊合... 押寄... 千餘騎... 陣脚... 塩川... 夜めく... 陣... 西條... 放ら... ト也... 自ら... 先... 橋... 正虎... 今井...

二は夜中

甲越

塩川をわたり... 夜めく... 陣... 西條... 放ら... ト也... 自ら... 先... 橋... 正虎... 今井...

なん所(横)を奇兵(奇兵)とて突(突)て一打(一打)も打(打)たんと奇(奇)小造(小造)り

人(人)殺(殺)西條(西條)陣(陣)と鶴(鶴)翼(翼)中(中)なり。武(武)田(田)勢(勢)と中(中)に(に)つ(つ)れんし(し)る(る)飲(飲)富(富)兵(兵)部(部)

魚(魚)鱗(鱗)小(小)備(備)く(く)飲(飲)中(中)以(以)突(突)陣(陣)へ(へ)し(し)年(年)以(以)兩(兩)陣(陣)中(中)に(に)血(血)煙(煙)と(と)立(立)つ(つ)る(る)

青(青)葉(葉)小(小)雲(雲)下(下)曳(曳)く(く)雲(雲)が(が)あ(あ)げ(げ)て(て)飛(飛)た(た)り(り)晴(晴)信(信)基(基)の(の)上(上)より(より)見(見)下(下)り(り)ぬ(ぬ)

と(と)名(名)宗(宗)う(う)け(け)入(入)る(る)月(月)の(の)下(下)に(に)三(三)騎(騎)突(突)陣(陣)し(し)陰(陰)縁(縁)より(より)血(血)の(の)流(流)れ(れ)

録(録)回(回)る(る)名(名)方(方)馬(馬)ら(ら)此(此)勇(勇)士(士)七(七)人(人)子(子)先(先)瓜(瓜)也(也)一(一)人(人)て(て)み(み)之(之)突(突)陣(陣)し(し)

い(い)事(事)さ(さ)く(く)西(西)條(條)が(が)軍(軍)勢(勢)を(を)破(破)れ(れ)南(南)本(本)向(向)ひ(ひ)敗(敗)れ(れ)て(て)逃(逃)る(る)

軍(軍)勢(勢)三(三)子(子)二(二)百(百)に(に)折(折)れ(れ)自(自)ら(ら)諸(諸)軍(軍)小(小)未(未)死(死)と(と)言(言)ふ(ふ)大(大)山(山)の(の)處(處)に(に)

見(見)ゆ(ゆ)く(く)後(後)方(方)小(小)差(差)系(系)が(が)見(見)物(物)と(と)す(す)頼(頼)辰(辰)が(が)旗(旗)本(本)北(北)勢(勢)と(と)以(以)て(て)

信(信)上(上)本(本)は(は)少(少)頼(頼)辰(辰)二(二)陣(陣)と(と)り(り)て(て)押(押)本(本)が(が)見(見)え(え)る(る)方(方)二(二)陣(陣)は(は)

基(基)の上(上)に(に)立(立)ち(ち)人(人)馬(馬)の(の)息(息)が(が)せ(せ)は(は)る(る)武(武)田(田)の(の)二(二)陣(陣)と(と)甘(甘)利(利)流(流)る(る)

馬也

會下月 越軍 巳六八

立風

以水

甲



旗本
 駿武田之
 旗本
 駿武田之

駿武田之
 旗本

其勢二子修孫進傍穴の親音と後小南忽往して押出頼茂の勢に
合つて引れぬ水子と相合たり頼茂と小南京が後陣小生と見ゆる
一も引れぬや攻取ひ甘利と飯の汁代りめ此一戦終小押付を
るるを合陽くと突進べし引れぬや攻取ひ甘利と飯の汁代りめ
は陣を一つも雨沢の洞ひさりて大比鞍と馬の沙煙空下登る
汗と指根を泥小移れらる魚のく今と敵味方声も上げ押へ首
不もあへ首控へ方とあり河村果と見ゆるは時晴信基の
のり共闘をころり馬と動して共へけり二陣の合戦先陣の親ひ一
両家の安危が極大とらる有状うれし行陣と春と見ゆるは
奇兵を麾と好國とらるれ者たし言ひ色も夢の二百人真光と小
徹部正原矢懼と後田備中も教来石民於ま回二八安回二を
後田備中も教来石民於ま回二八安回二を

立

左邊七人陰移依七修突へば成り小幡徹於正虎盛一義
勇士千野七彦を討取依ひて四人を突取らる其餘のく千
我と頼茂が旗本勢忽ら小突取られ討つるの勢、武田方ハ
正兵奇兵の集つるの勢、南やう打とるは頼茂勢今た
まのうの南小向ひて引れぬや攻取ひ甘利と飯の汁代りめ
扱ひの一軍し、深く討死せしつるを早く馬の頭成を
傷けども、急とる麻とて、船の退く、中て六七町を散
なり、殿散せり、は、頼茂が手と、波江内、藤三郎、左
両方、勇士、急とる中、取り、合、藤三郎、左、右、
方の諸軍、急とる、急とる、急とる、急とる、急とる、急とる、
扱とる、急とる、急とる、急とる、急とる、急とる、急とる、

盛



小幡虎盛
斬本村又次郎



終之田越軍書卷

甲越

諸士中と闘通しはか淡の内を今一躍して晴信の馬上小在とて
 て落さんし馳奔する多田二八馬より飛下りて壺子と紐両方闘し
 雲の速者力量も負ぶるといふ上成下になり。三將び四將ひさる
 二八透と考へお刀指ぬる取法は物具の同然二刀を刺し弱
 不況取と押へやぐて首取ぞ捨てたるは振振は驚かろし。六軍終りては
 二八を多田澄路もあせふされたる。今井市郎も今物とて両度の敵ひ
 ぬ敵討半七騎今人々將軍の林に派持と兵さうし。床几と夜そ
 馳さうとてさうとて襟裏と引紐腰力と出し取て押首取捨んとする
 今井市郎も悪三郎悪四郎とて者あり。年来の悪三郎と思ひ
 已も同じく武田勢も給まへ主の跡より馳せむ本馳まへ自れは主人
 と馳敵のぬれ紐布も危なげな場不と見る。今井市郎も馳を捨て飛て悪三郎
 今井市郎の引合のしる所も徹せとてたぐふ小突はれぬ。物も
 せは長し後臂を延し悪三郎以宙引さげ。行子にげ小投げると安間三
 ちる。けあう。起し。も。ま。び。切。は。う。り。その間小今井。最。最。が。首。取。り。手。麻
 び。屋。せ。え。ま。ん。だ。ん。と。さ。る。討。悪。三。郎。け。あ。う。今。井。が。腰。の。遠。矢。丁。也。突。其
 除物具を貫た胴骨も突あう。市郎も弱と。あ。ま。は。の。小。冠
 者。母。後。付。ら。う。う。の。口。格。こ。よ。也。抜。お。小。悪。三。郎。を。半。面。め。う。け。と
 切。六。二。言。と。云。ど。倒。ま。さ。る。今。井。が。勇。壯。さ。う。東。も。二。ヶ。木。の。陰。に
 深。き。め。り。て。忽。ち。其。地。小。死。せ。り。や。や。寧。ろ。小。怪。む。と。勇。ま。す。晴。信。の。影
 其。間。小。り。の。影。へ。引。込。れ。身。成。体。に。在。り。ま。ん。一。陣。二。陣。忽。ち。あ。ら。ぬ。其
 小。差。子。の。勢。舟。上。の。上。を。押。下。り。二。差。子。の。旗。押。さ。る。ま。る。小。差。子。の
 士。大。將。兩。本。林。修。理。危。其。勢。二。千。餘。騎。矣。之。所。推。矣。が。村。と。む。り。や。く。

今井市郎 武田 甲越

敵

諸士中と闘通しはか淡の内を今一躍して晴信の馬上小在とて
 て落さんし馳奔する多田二八馬より飛下りて壺子と紐両方闘し
 雲の速者力量も負ぶるといふ上成下になり。三將び四將ひさる
 二八透と考へお刀指ぬる取法は物具の同然二刀を刺し弱
 不況取と押へやぐて首取ぞ捨てたるは振振は驚かろし。六軍終りては
 二八を多田澄路もあせふされたる。今井市郎も今物とて両度の敵ひ
 ぬ敵討半七騎今人々將軍の林に派持と兵さうし。床几と夜そ
 馳さうとてさうとて襟裏と引紐腰力と出し取て押首取捨んとする
 今井市郎も悪三郎悪四郎とて者あり。年来の悪三郎と思ひ
 已も同じく武田勢も給まへ主の跡より馳せむ本馳まへ自れは主人
 と馳敵のぬれ紐布も危なげな場不と見る。今井市郎も馳を捨て飛て悪三郎
 今井市郎の引合のしる所も徹せとてたぐふ小突はれぬ。物も
 せは長し後臂を延し悪三郎以宙引さげ。行子にげ小投げると安間三
 ちる。けあう。起し。も。ま。び。切。は。う。り。その間小今井。最。最。が。首。取。り。手。麻
 び。屋。せ。え。ま。ん。だ。ん。と。さ。る。討。悪。三。郎。け。あ。う。今。井。が。腰。の。遠。矢。丁。也。突。其
 除物具を貫た胴骨も突あう。市郎も弱と。あ。ま。は。の。小。冠
 者。母。後。付。ら。う。う。の。口。格。こ。よ。也。抜。お。小。悪。三。郎。を。半。面。め。う。け。と
 切。六。二。言。と。云。ど。倒。ま。さ。る。今。井。が。勇。壯。さ。う。東。も。二。ヶ。木。の。陰。に
 深。き。め。り。て。忽。ち。其。地。小。死。せ。り。や。や。寧。ろ。小。怪。む。と。勇。ま。す。晴。信。の。影
 其。間。小。り。の。影。へ。引。込。れ。身。成。体。に。在。り。ま。ん。一。陣。二。陣。忽。ち。あ。ら。ぬ。其
 小。差。子。の。勢。舟。上。の。上。を。押。下。り。二。差。子。の。旗。押。さ。る。ま。る。小。差。子。の
 士。大。將。兩。本。林。修。理。危。其。勢。二。千。餘。騎。矣。之。所。推。矣。が。村。と。む。り。や。く。

今井市郎 武田 甲越

伏

敵

通

元

甲越

X 敵

既

武田の陣小山田備中を以て
 好騎中受りて東西小田と南小田圍之敵以真宿中に見たりしに
 晴信もこれに人馬の氣力と善いのみ最初この兵三百餘騎は
 と押ちり敵二回小突く入先陣小進む者之例の七人會釈もたゞ狂入也
 小幡鐵正大半月の茶立物一巻送し名乗らば馬武者一人突虎し
 かめてうゑ其有根指心しめ十倍一槍先小向ふもの一人もたゞ
 一條血の浪立ち突立原矢流さるも士卒と勇先辨子奮迅の怒は
 突倒し突破せむ侍者五人小見入らるに附小笠原の足輕大將二本原
 左衛門と若者刃の互四尺片の太長刀水車にけりて原矢流さると
 燦々出合双方名卷の鬼武者人ませもせれば敵ハ原が槍の法性
 過雲が再来の二本が推刀と古の関羽が青龍刀と槍を手に取あり
 双方油と鐵と塵と飛して敵ハ二本原左衛門の兼刀とせりて原ハ
 脚と膝んと地と拂ひ分ちて切先太地小旗入りて原矢流さると
 やわしに二本原一槍小突伏しつゝ一本原ハ兩森が軍勢の奇兵
 皆鉄入騎七騎突伏首瓜らびつゝ一本原ハ兩森が軍勢の奇兵
 の横槍小突あされしゆりもさく南とじて敗散せりは表ハ小笠原長時
 一本原方三股まで破られ今ハ敵敵ハ勇またらん之ハ我荒子とあり
 今この役軍の恥を雪んと後陣の荒子三百餘騎輕兵急攻めり
 けり武田方本平道の正兵と小山田後中も一本原と破れて後
 西の支引上まで晴信の清勢を破りめりて其の上へ引くと後道
 破れ南へ息瓜体らる小笠原勢遠敵と長時自身の采死をせり
 箕手と度けりるが如く本備(押本)武田の四陣板垣駿河守二千

武田の陣小山田備中を以て
 好騎中受りて東西小田と南小田圍之敵以真宿中に見たりしに
 晴信もこれに人馬の氣力と善いのみ最初この兵三百餘騎は
 と押ちり敵二回小突く入先陣小進む者之例の七人會釈もたゞ狂入也
 小幡鐵正大半月の茶立物一巻送し名乗らば馬武者一人突虎し
 かめてうゑ其有根指心しめ十倍一槍先小向ふもの一人もたゞ
 一條血の浪立ち突立原矢流さるも士卒と勇先辨子奮迅の怒は
 突倒し突破せむ侍者五人小見入らるに附小笠原の足輕大將二本原
 左衛門と若者刃の互四尺片の太長刀水車にけりて原矢流さると
 燦々出合双方名卷の鬼武者人ませもせれば敵ハ原が槍の法性
 過雲が再来の二本が推刀と古の関羽が青龍刀と槍を手に取あり
 双方油と鐵と塵と飛して敵ハ二本原左衛門の兼刀とせりて原ハ
 脚と膝んと地と拂ひ分ちて切先太地小旗入りて原矢流さると
 やわしに二本原一槍小突伏しつゝ一本原ハ兩森が軍勢の奇兵
 皆鉄入騎七騎突伏首瓜らびつゝ一本原ハ兩森が軍勢の奇兵
 の横槍小突あされしゆりもさく南とじて敗散せりは表ハ小笠原長時
 一本原方三股まで破られ今ハ敵敵ハ勇またらん之ハ我荒子とあり
 今この役軍の恥を雪んと後陣の荒子三百餘騎輕兵急攻めり
 けり武田方本平道の正兵と小山田後中も一本原と破れて後
 西の支引上まで晴信の清勢を破りめりて其の上へ引くと後道
 破れ南へ息瓜体らる小笠原勢遠敵と長時自身の采死をせり
 箕手と度けりるが如く本備(押本)武田の四陣板垣駿河守二千

原加賀守
 促郡氏
 敗叛方
 小芝京勢



終ノ日...

武田晴信



武田晴信
 喜俊園

武田晴信



小倉の者小登り。甚う原並濟の方と見ゆ。合戦今せよと盛
 と見。旗手東西お籠り。少煙天を中。おと軍味方勝利と見
 安堵。百姓も小向い浴者とは。山小育。美が勢敵陣へ突入りと見
 ち。お陣を敷を振ら。紙旗を動し。日暮小内城を破り。叫ぶを。旗
 是。紙。足。と。登。り。登。る。と。見。る。と。山。上。と。う。攻。め。の。後。と。見
 圓。結。小。備。と。あ。り。と。計。を。教。へ。其。身。と。二。百。人。の。兵。を。お。取。ら。れ。右。軍。引。率。し
 山。を。下。り。と。諺。訪。小。笠。原。北。右。の。方。へ。押。入。し。懸。波。を。供。と。上。な。れ。両。家。の。勢
 是。を。見。て。お。と。後。浩。の。本。り。し。せ。し。旗。の。子。を。け。て。見。へ。る。お。合。戦。も
 なく。突。入。取。散。離。合。し。切。り。勝。山。の。頂。へ。唯。今。原。が。切。入。る。と。叫。ぶ。と
 原。と。調。へ。一。世。の。大。音。今。日。紙。限。り。せ。張。上。種。を。敷。二。回。小。打。鳴。し。用。意。の
 紙。縫。み。ご。り。に。打。ち。り。山。上。と。う。攻。め。り。両。家。の。勢。の。後。陣。と。見。ゆ。と。見。せ

かねて諺訪小笠原の軍勢。敵方以外大軍の後浩を破り。去置り
 斯む。これ後勢。と思ひ。よ。い。急。之。軍。を。お。取。ら。れ。懸。波。小。と。見。ゆ。と
 最初。より。軍。見。物。し。て。あり。日向。大。和。也。今。井。原。勢。也。今。大。將。軍。は。清。元
 る。く。も。お。と。り。に。少。意。は。あ。り。と。見。ゆ。と。雜。兵。首。一。つ。取。ら。れ。も。滑。田。勢。は。し。し
 二。百。餘。人。を。引。率。し。お。の。山。路。と。取。り。一。回。小。切。合。六。信。列。勢。と。見。ゆ。と
 の。後。浩。が。様。と。見。ゆ。と。見。分。り。と。見。ゆ。と。上。小。成。と。迎。知。人。情。信。と。未。記。振。と
 下。部。を。か。し。今。こ。れ。勝。危。と。付。き。る。と。雜。兵。湯。武。者。小。同。と。見。ゆ。と。頼。成
 長。時。お。と。と。と。備。を。礼。し。て。逆。立。追。浩。と。見。ゆ。と。切。之。の。一。回。西。一。返。し
 も。と。と。と。坂。東。乃。井。里。許。遊。擊。へ。馬。物。具。を。持。つ。幸。良。を。請。ふ。所。と。見。ゆ。と
 と。美。身。小。及。び。一。回。金。と。見。ゆ。と。味。方。と。相。見。の。ひ。と。見。ゆ。と。日。の。合。戦。場。乃
 且。後。の。首。二。千。七。百。四。十。八。級。小。と。見。ゆ。と。之。を。討。め。し。幸。良。と。見。ゆ。と。本。晴。信。乃

田代重巳

采

奇兵の重之中國しは是を藤清小陣を取両家敗散の恥を雪ぐ
取くたす事ありんし。二月許返るまうゆとや。幸國(一)介
久経小甲鎗小凱旋しき。是より信虎高恩依推ひ。幸信信
を恨むるまうのまうと。智勇兼備の良将なりと。是れをばせらる
るなりと。

晴信春後の幸 并板垣信直直諫の幸

武田之勝六丈幸信濃守晴信也。若幸に。せむと。幸も。直諫を
致幸に。諏訪小美奈の両家以細粉の如く打碎と。其後天文八年国六月
かの両家あつて。甲及び押しを。機場。聖也。其本の合戦小利と。之ひ
後。取て武田家を。傳也。や。ひ。人。皆。礼。を。さ。る。も。さ。ら。ら。後。さ。ら。ら
武田の武威日々加つり。天文八年六月十九日に。成。の。上。言。事。も。ゆ。し。の

取

武田の己の勇をたのむ信別の敵軍恐るに是どと。春は。自。り。り。り
也。途。来。より。華。兵。風。流。を。専。ら。さ。る。ぬ。甲。州。の。地。と。人。物。鄙。且。甲。州
さ。り。り。の。婦。人。の。容。儀。物。さ。ら。な。ど。空。ゆ。さ。る。も。さ。ら。ら。帝。初。と。婦。人。を
風。色。端。正。め。て。且。情。好。り。な。ど。國。を。是。後。六。帝。都。の。婦。人。の。所。り。も
能。辨。する。容。儀。正。し。り。の。公。年。下。一。是。も。附。垂。く。立。振。翁。を。甲。州。に
去。地。の。婦。人。が。甲。ま。さ。る。と。た。め。垂。と。思。百。系。初。人。を。遣。し。職。と。の。技
婦。と。百。家。ら。ま。其。外。英。女。二十。人。む。ら。依。需。免。出。甲。州。小。定。一。人。は
左。右。に。垂。ま。さ。る。諸。小。芝。蘭。の。家。小。入。り。た。ま。澤。さ。る。小。長。自。ら。書。し。せ
り。海。云。の。く。づ。り。う。美。婦。が。蟬。娟。する。容。姿。女。起。拳。勁。小。心。を。後。され。後。は
賊。を。側。小。垂。ま。は。は。く。容。姿。一。の。ひ。其。外。近。く。系。降。人。を。遣。し。信。女。遊。女
の。お。ひ。を。右。招。ま。左。右。小。侍。の。十四。人。系。獲。遇。を。あ。り。よ。ひ。小。姫。と。成

會本目録



晴信善俊
花軍
遊戯



其二



繪本甲越言談卷六



板垣信秋
學詩作



板垣信秋

板垣信元
諫晴信

清本甲越





